



FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第44号 2012. 3. 1

FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

十和田農場から

十和田農場にマンクスロフトン（ヒツジ）がやってきた

富士山の麓にある日本獣医生命科学大学富士アニマルファームから、マンクスロフトン種と言う名のヒツジ2頭（♂1、♀1）がFSC十和田農場にやってきました。その代わりに、十和田農場からは富士アニマルファームにサフォーク種3頭（♂1、♀2）が移管されました。

11月16日に、約12時間トラックにゆられ獣医学部に到着したマンクスロフトンは、大学内にある動物検疫舎に直行、そこで2週間の検疫飼育期間で異常がないことが確認され、12月1日に農場のヒツジ舎に移動されました。その際に、獣医繁殖学の三浦先生に妊娠鑑定をお願いしたところ、めでたく妊娠も確認できました。春にはもう1頭増える予定です。マンクスロフトンとは、バイキングの言葉で「小さな茶色い奴」を意味し、その名の通り、茶色い毛色の小さなヒツジです。本当に小さくて可愛いヒツジですよ。皆さん見に来て下さい。近くにいる農場職員に声を掛けていただければ、案内しますよ。マンクスロフトンはイギリスのマン島で飼育されている世界的にも頭数の少ない希少動物種です。農場では、これから展示動物として、また実験実習などに供用できるように、繁殖をはじめ維持管理に努めていきたいと思えます。



八雲牧場から 三者交流会 in 八雲

10月5日～7日まで、持続可能型農業を実践する人々が集う「三者交流会 in 八雲」が八雲牧場をメイン会場として行われました。静岡県、鹿児島県、遠くは奄美大島の農業生産者と静岡県の消費者団体など約40名が集まり、5日に行われたシンポジウムと懇親会では、八雲町の伊瀬副町長を始め、近隣の放牧酪農家、合鴨農法稲作農家、平飼い鶏卵農家の参加もあり、鹿児島や静岡の事例などさまざまな地域での取り組みを聞くことができました。

下牧完了

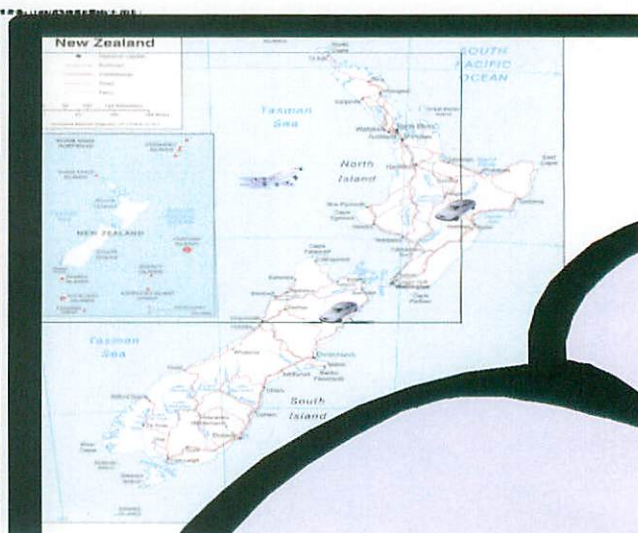
11月中旬、放牧地に放牧されていた牛群の下牧を完了しました。これから、雪の解ける5月まで、牛舎での管理になります。今年は、肥育牛群を体格ごとに3グループに分けてグラスサイレージを給与します。体格差による食い負けを防ぐことで、より効率良く肥育しようと考えています。

北里八雲有機牛発出荷

有機畜産物の生産に取り組んで2年が過ぎ、10月ようやく初の有機牛が出荷されました。初めての出荷であることと有機畜産物に対する厳しい取り決めがあるため、直前までいろいろな障害がありましたが、なんとか出荷することができました。また、その後の学部内での販売の際には教職員の皆様にご購入いただきありがとうございました。

ニュージーランド訪問 (11/26～12/8)

地球温暖化対策事業の調査事業の一環で、ニュージーランドにおける草地土壌の炭素貯留に関する取り組み状況および研究動向の調査の目的のため、畜草研の松浦さんと寶示戸牧場長、小野がニュージーランドへ出張しました。北島オークランドから南島のクライストチャーチまでレンタカーを利用し、研究機関であるAgResearchや主要な大学を訪問し、視察および情報交換を行ってきました。八雲牧場の取り組みには、大変興味を持っていただきました。初めてのニュージーランドでしたが渡航前のイメージとは違い、どこまでも開発された山々が印象的でした。



ハミルトン近郊の牧場（2haほどの草地に
200頭以上の牛が放牧）

日本有機農業学会 (12/10 ~ 12)

日本有機農業学会が下記の日程で北海道大学で行われ、小野が参加しました。

12月10日・全体セッション

12月11日・個別報告およびポスター発表

12月12日・エクスカージョン：北里大学 FSC 八雲牧場

全体セッション 3「日本国内における有機畜産の可能性と課題」において『有機認証の取得の経緯と問題点：有機牛初出荷を終えて』という題で事例報告を行ってきました。

学会として今までは農産物中心の討論が多かったため、今回初めて畜産分野に関する報告であったこともあり質疑がどうなるか解らないということでしたが、たくさんの意見をいただくことができました。質問の内容は、分野が異なる方が多かったため基本的な家畜管理に関することが中心でしたが、有機のシステムにおける問題点などに関しては「同じようなことを感じていた」、「生の声を聞かせてもらうことで改善につながります」など同じ様な矛盾を感じている方が非常に多いことがわかりました。また本学会には道農政部、有機認証協会などからも参加されていたため、今後改善のきっかけになれば良いと思います。

12日には数名ではありましたが、八雲牧場に来場され、有機畜産の現場を見ていただきました。

(編集担当：畔柳 正)